

# 経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

佐賀県 唐津市

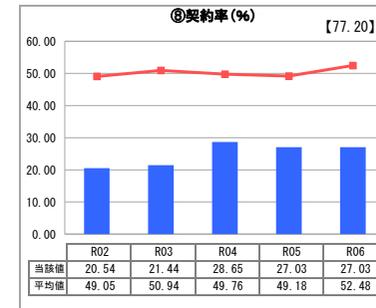
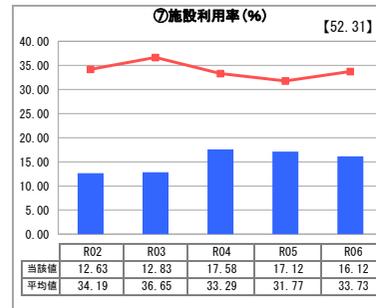
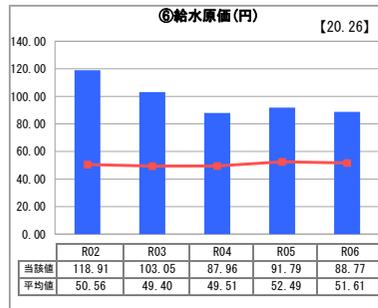
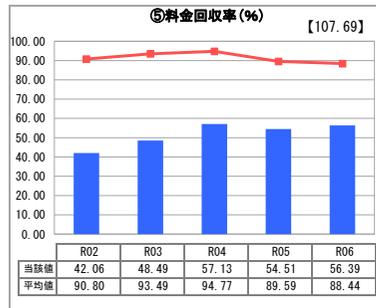
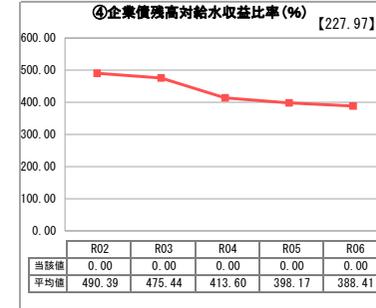
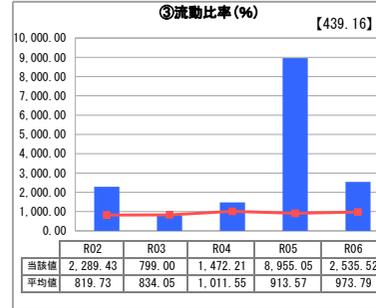
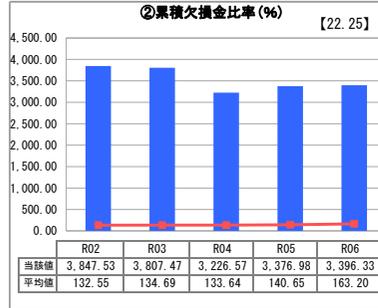
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m <sup>3</sup> )
法適用	工業用水道事業	9,300	極小規模	1	1,499
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m <sup>3</sup> /日)	管理者の情報	
-	99.4	7	2,514	非設置	

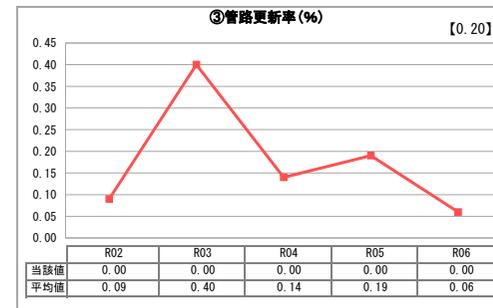
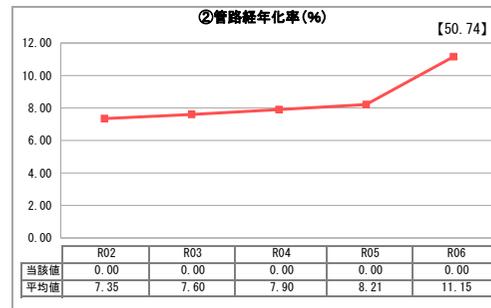
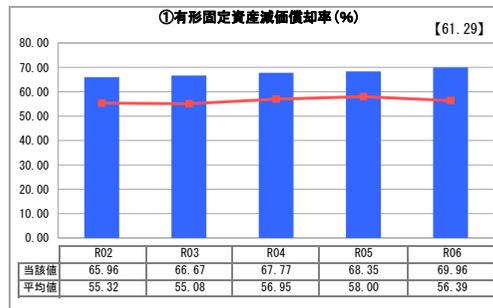
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び②累積欠損比率について、人事異動に伴う職員給与費の減少により費用が減少したため、前年よりも上昇している。  
 ③流動比率については、前年度に引き続き建設改良工事関係の未払金が多かったため、類似団体等と比較しても著しく高い数値となっている。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、令和2年度に償還金が終了したため、令和3年度以降は「0」となる。  
 ⑤料金回収率は100%をかなり下回っている。誘致等による企業進出等が見込めず、水量の増加による給水収益の増加が難しい状況である。①、②と同じ理由により、昨年度よりは上昇している。  
 ⑥給水原価は、工業用水施設の管理負担金の割合が高いため、平均値をかなり上回っている。  
 ⑦施設利用率と⑧契約率については、給水区域が限定的なこともあり、契約事業所の増加が見込めない状況が続いているため、平均値を大きく下回っている。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、一定の割合で上昇しており、②管路経年率及び③管路更新率は、耐用年数を経過した管はなく、更新を行っていないが、布設より30年ほど経過しているため、今後は順次更新していく必要がある。

### 全体総括

平成5年に工業用水の給水を開始したが、給水区域は限られており、更に区域内は食品加工業者が多く、工業用水が適さず、契約率は低いままで、設備等の老朽化も進んでいる。  
 令和2年度に「個別施設計画」を策定しており、計画的に更新を行っていく。  
 県内での現行料金は、当市が最高であり、料金改定は予定していない。契約水量の増加により給水収益が増加し、安定的な経営が行えるようになった場合は、適正な料金となるよう見直しを行いたい。  
 今後も、経費の節減に努めつつ、企業誘致部局と連携をはかり、引き続き給水区域の新規需要の開拓及び工業用水の用途等の再検討を行いつつ、給水収益の増収を図る必要がある。